資　料　２
第21回子ども･子育て分科会
令和元年5月16日（木）

第20回子ども・子育て分科会における意見について

１．ニーズ調査等の結果について

〇愛らんど・わいわい広場の利用状況のアンケート調査結果と愛らんど・わいわい広場の利用実数（参加人数）を並べて比較検討する必要があるのではないか。

２．課題整理について

（１）課題１

〇横須賀市は人口の社会減が深刻な現状ですが、「子育て環境の充実」が人口の社会増と長期的な発展に重要と感じる。現計画における取り組むべき課題等の中で、「定住促進の主たる世代（20歳台～40歳台）から「住むまち」として選ばれるような施策を強化してまいります。」の一文は正に重要な課題と感じ、強く推し進めてほしいが、次期計画における取り組むべき課題の整理にはそこが現れていないように感じる。

〇「出産や子育ての希望をかなえ」について、現在把握している希望をかなえる施策だけでは後手にまわることが予測される。女性が今の環境なら「これくらいしか難しいかな」と無意識の中で現実的な判断をし、実際の出産や仕事の計画を立てている。もっと魅力的な環境があるなら「もっと子どもをほしい」や「もっと正社員のまま仕事を続けたい」、「もっとキャリアアップを考えたい」と感じる可能性があり、それを実現していく他市区に転居していくことが考えられる。（正に今の社会減が起きている理由ではないかと感じる。そして今の希望をかなえるだけでは今後も社会減になる可能性が高いと感じる。）
例えば、「出産や子育てに魅力的な環境を整え」など積極的な姿勢を打ち出していくべきではと感じる。

〇「より安全で安心した子ども・子育て環境を整える。」について、例えば、「より安全で安心感を持ち、定住促進の主たる世代がぜひ横須賀市で　子育てしたいと感じる子ども・子育て環境を整える。」や、ニッポン一億総活躍プランも踏まえて「より安全で安心感を持ち、定住促進の主たる世代が何も諦めることなく横須賀市で子育てしたいと感じる子ども・子育て環境を整える。」などもう一歩踏み込んだ課題としてはいかが。

（２）課題２

○女性も自己実現をしていく社会になり女性の就業率が高まる中、女性が仕事と育児を両立できる環境支援と男性の育児・家事参画の推進が重要となる。その上で「これまでの取り組みをさらに強化し」だけでは『仕事と子育ての両立』は実現できないのではとの懸念がある。今回の課題の整理について「これまでの取り組みをさらに強化し」を例えば、「これまでの取り組みを強化すると共に更にもう一歩踏み込んだ取り組みを進め」など必要ではと感じる。（補足になるが、もし保育園に安心して入ることができ、また仕事が続けられる環境があるなら、潜在ニーズはまだまだ増え、引き続き待機児童の解消すら実現しない可能性があると感じる）

○潜在ニーズが増えたとしても待機児童ゼロをすぐに実現する。（他市区はここを目指している）

○学童等について、数、負担、質などに対して要望が多い中、市としてすぐに大きな進展を図るのは難しい現状も踏まえ、民間の学童を誘致（学区を越えても送迎があれば利用者はいると考える）するなど、保護者が選択できる環境の実現（例えばティップネス、しんがーずくらぶ等）

○父親の意識啓発と金銭的支援（父親への情報発信、意識啓発セミナー実施、男性育休取得者本人への助成金、企業への父親の育児参画啓発セミナー実施等）（法定である育児休業制度等がない企業への指導など（他部署と連携）も進めてほしい）

（３）課題３

○アンケート結果より、子どもが病気になった時の支援、子どもが病後で保育園に登園出来ないケースの支援、親が病気になった時の支援、土日の支援、自分の時間をつくることが出来るための支援、が重要と思うが、この文言にはそれらが含まれていると考えてよろしいか。

○病児保育等の整備については、横須賀市ＦＭ戦略プランとの連携も重要と感じているがいかが。

（４）課題４

○現計画における取り組むべき課題等の「利用できる制度をわかりやすく情報提供していくような利用者支援が求められてきています。」（13行目）が正に重要と感じる。実際に周囲の保護者と会話をする中で、市の制度を知らない、何となく知っているけれど利用したことはない、不安だから利用したことがないという保護者が非常に多いためです。いい制度がありながらも活かされていないため、保護者と市の歩み寄りや接点を多く持つことが必要。

○例えば「積極的に子ども・子育て支援を図る。」「保護者に寄り添って子ども・子育て支援を」など一歩踏み込んだ文言を提言する。

○今後の量の見込み（ニーズ量）につきましては現段階の状況でのニーズではなく、子育て環境が良くなることで母親の意識変化があることも含めた潜在ニーズを求める。

（５）課題５

○ひとり親支援について今回の文言は、今後の５年間（次期プラン）でも、やはり不安は取り除けない、経済的にもやはり生活困難層のまま、という感じが見受けられる。ひとり親でも安心して仕事ができる保育園、学童、病児保育等の整備（土日も対応）や、ひとり親がしっかり収入を得られるキャリア支援（他部署と連携や横須賀独自の支援を検討等）を目指して課題の整理の文言を打ち出してほしい。

（６）課題６

○今回の課題の整理に直接的なことではないが、今後、父親の育児・家事参画を増やしていく中で、「母親クラブ」という名称はそぐわなくなってきているのではと感じた。

○母親クラブ、ジュニアリーダー、青少年育成協力店について登録数だけでなく、活動実態や実績数を見る必要がある。

○放課後の行き場を失う「小１の壁」子ども達が本当にやりたいことは何なのか。少子化も一因だが、本市における子ども会の数は、平成27年度　239、平成28年度228、平成29年度201、平成30年度194と減少傾向にある。子ども会に入ると、いずれ保護者としての役が回ってくるので、子ども会に入らないというケースが目立つ。子ども会は地域限定の集まりなので、地域の大人たちに関わっていただければ、この問題は解決する。地域の子どもは地域で育てることを実践するために、町内会で子ども会の活性化を図ることを目指してほしい。ジュニア

リーダーを町内会で認め、子ども会の活性化の一助にしては如何か。行事などに参加するジュニアリーダーも少ないと聞いているので、育てたジュニアリーダーの活躍の場も作ることができる。